

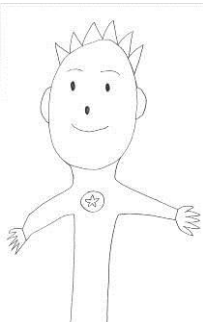
酷暑お見舞い申し上げます

はぐるま

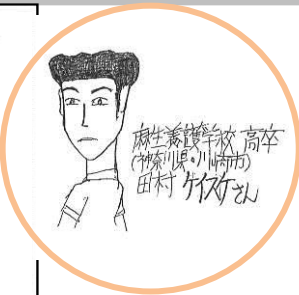
猛暑ということばが
 日常的に使われる昨今
 真に お暑うございます
 この暑さは仲間活動に
 とつて重大なる影響を
 及ぼす事態なのです。
 毎日光化学スモッグ警報
 が発令され、外活動が
 ストップします。
 販売活動に出られない：
 農作業は涼しい時間
 とはいえ、涼しい時間が
 少ない!! 熱中症に要注意
 仲間たちは
 日頃鍛えた体力と気力で
 夏を乗り越えたいものです

作業所だより みんな元気です

自画像と文
 田村慧介さん



イ美は 田村慧介です。
 4月にはぐるま菅工舎に
 入りました。
 今かかんばっている事は、
 ふきんの布たたみと糸
 七かりと二つおりで
 高木喬くんと二人で
 布たたみをかんばって
 います。アイロン勉強も
 やっています。
 お家で花のしゅうをやって
 います。これからよろしくお原
 頁いたします。



自治会役員
 山田さん描

はぐるま菅工舎 (生活介護)
 新入生ですよろしく

No.75号
 2013年8月9日

社会福祉法人
 はぐるまの会

広報委員会
 後援会
 川崎市多摩区菅馬場1-18-17
 Tel 044-946-1308

はぐるま共同作業所 (生活介護)

わかめの販売が再開して、もうすぐ一年です。
 おかげさまで、多くの方にご利用いただき、日
 常が当たり前のように継続できていることに喜
 びを感じています。また、毎月「わかめ新聞」
 を発行して、継続はするけれど「飽き」はない
 よう、フレッシュな情報を提供していきたいと
 思っています。
 さて、我々が今取り組んでいることは、左の
 写真を見てわかるように：パンづくり！
 いずれ、仲間の仕事になればいいなあと研究中
 なのです。黒こげになったり、ふくらまなかっ
 たり、前途多難ですが、仲間は必ず「おいしい！」
 との感想。つくった人からすればうれしいけど
 ご意見番としては参考に
 ならない・・・。
 はぐるまパンお楽しみに！



はぐるま工房 (生活介護)



夏野菜満載

工房が、宮前

水沢に移転して、
三ヶ月が過ぎました
地域の方々には、

「はぐるま稗原農園」
という愛称で認知さ
れ始めています。
畑が今までの数倍に

もなり、毎日猛暑の中、畑仕事には大変な季節
ですが、これからは、夏野菜がたくさん収穫で
きます。**なす・きゅうり・トマト**

**ゴーヤ・モロヘイヤ・トウモロコシ・すいかピ
ーマン・しし唐・コールラビ・ラディッシュ
おかひじき・いんげん・じゃがいも・空芯菜・
春菊・おくら・かぼちゃなど**

たーくさんの実り：ハーブ園も伸び盛り・・・
今は、第二はぐるま共同作業所の店頭に置き販
売をしております。今後はこちらに直売所
を設置し、販売してまいります。

秋には地域の子供会を招待し、芋掘り体験
や、焼き芋大会を開催し、さらに地域に根
差してまいります。

第2はぐるま共同作業所 (就労B型)

よみうりランド駅周辺

まちづくプロジェクト参加報告

六月二十二日(土)

まちづくりボランティアグループ

(地域住民・商店街・日本女子大教授・付属

高校・学生の有志が所属) が川崎市のサポー

トを受けながら活動をしている行事に参加して
きました。「よみうりランドに花を植えよう」
ということでこの日は朝九時から軽トラック



職員一名が参加しました。

に満載の土やプラン
ター、色とりどりの
花が作業所の前に
山積みになれました
スタッフやボランテイ
アの学生さん 植木や
さん十数名に加え、
第2作の仲間三名、

道行く人やご近所の方のとび入りもあり、
仲間からも「楽しい」の言葉が聞かれ、和気あ
いあいとした作業風景でした。今、町のあちら
こちらに皆で植えた花が見事に咲き誇っていま
す。毎日の水やりも仲間たちが行い、今後も地
域の皆さんと共にできることを積極的に行って
いけると良いと思います。

トピックス

《大作自治会から表彰されました》

七月二十七日 盆踊り大会の時に
自治会長さんより、仲間会に賞状と
金一封を頂きました。



感謝状

社会福祉法人はぐるまの会
第二はぐるま共同作業所 殿
皆さんは大作の街路を吹き抜ける一陣の
風のように 毎日道端のごみを拾い集めて
こられました。この行いは街並み美化に
励んでいる大作の一人ひとりに勇気と力
を与えております
この道を気持ちよく通っている多くの人
たちを代表し深く感謝の意を表します

大作自治会

平成二十五年七月二十七日

すてきな文面なので、ヨーク読んで下さい

東北に行こう！！只今学習中



今年の仲間合宿は東北に行くことを計画しています。

はぐるまの仲間はこれまで、

いろんなことを体験・経験し、またそのことを振り返って学習しながら、できなかったことができるように・わからないことをわかるようにしてきました。

先の大震災で、仲間は自分たちができることとして、『何をしたのか』『結果何が変わったのか』を学習し、この2年間のまとめをしています。

8月の下旬には、実行委員の仲間が下見に行ってきます

学習の Q & A

Q 震災の日 どんなことが起こりましたか

あの日は、金曜日で販売活動でみんな外にいませんね、覚えていますか？

A 天応町駅で電車が止まり、道がぐらぐら揺れていました。車も来なくて、寒くて、みんなでコンビニのカップラーメンを食べて待ちました。ホームに着いたのは、十一時になりました。

Q その後の生活で影響はありましたか

A 電話がつかない、パンがなくなった、水がないなどがあつた。

Q 青山さん（二十年余年あまり前から、作業所とわがめの取引をしている三陸の商店）に何をしましたか

A 募金活動一〇〇件以上をお願いに行った（仲間自治会で一三〇万円以上の募金を集めました）そして、その年の5月に、深夜2時に職員と車に乗って三陸の青山さんに会いに行き、募金と寄せ書きを届けました。

Q その時の三陸の様子はどうでしたか

A 青山さんの近くは船とか車とかが積みあがっていて、ぐちゃぐちゃだった

研修報告 「いつまでも元気で」

食事部会研修を報告します。

年々増加傾向にある仲間の通院を、「食生活」の面からも改善し、いつまでも元気な仲間であるように、毎月研修を行っています。

今年のテーマは、「生活を見直し、個々の特性に合わせた食事について」です。

特性で注目しているのは、毎日の運動量や疾病で、実態に忠じて、個々に必要摂取量を算出したり、調理方法を工夫したりします。

予備軍が多いとされている・高脂血症・痛風・糖尿病などがあげられますが、食事により改善していきますので、献立には気を使いながらつくりまします。すでにかかっている仲間にとっては、食事療法は必ずですので、量等の制限を医療指示に従って作ります。

これからもおいしい食事を作るために、ホーム食事担当者で研修を積んでいきたいと思ひます



新たな障害支援区分はどうなる

平成26年4月の障害者総合支援法の完全実施に伴い、これまでのサービス受給量を決める「障害程度区分」は「障害支援区分」として再編されます。

25年度も半分にさしかかり、

全容が見えてきてもいい時期ではないかと思えます。そもそも区分化される時に個々人の障害の多様な特性が十分考慮されるのが、最大の問題でした。

しかし現状は、高齢者の介護保険をモデルにした判定内容なので、正確に個人の特徴を評価したものとはいえませんが、特に知的障害や精神障害の方は、

一次判定（コンピュータ）で低く判定され、二次判定（認定調査会）で引き上げられる割合が、40%以上にものぼる実態から、障害特性が反映されていないことが指摘されていました。また都道府県によって二次判定が多く実施された県と

一次判定で済んでいる所の格差が大きいこと等の実態も報告されています。「障害支援区分」では、このような点を改善するために、大きく2つの見直し案が厚労省から出されました。

新判定の何が変るのか

★二次判定により近い、一次判定が全国一律で可能になるようコンピュータ判定式の見直しがされます。

今まで認定調査会でコンピュータでは判断できなかった実態をカバーしていた部分も、すべてコンピュータで判断され、機械的な判定になり、具体的な実態が反映しにくくなります。また「認定調査会」の役割がかなり薄くなるのではないかと心配されます。

★一〇六項目 ↓ 八〇項目に減らし

知的・精神の特性が反映される項目を、追加発達障害の特性にも配慮し行動障害に関する項目が追加されます。

具体的な調査項目はどのように変わるのか

《例》行動障害に関する項目（全三四項目）

他人を傷つける行為

たたく・蹴る・ガラスを割るなど、他人を傷つけたり

傷つける危険性のある行為

旧 3 択（ない・時々ある・毎日ある）

新 5 択（ない・稀にある・月1回・週1回

毎日ある）と選択肢を増やす。

◎日常的に他人を傷つける行為が無いように

工夫したり、周辺の配慮をしていますが、そのような支援をすると行動として出ないので軽い判定がされがちでした。5 択によって支援の頻度も評価できるということですが、コンピュータに入力する時は、3 段階の配点になり結果変わらない点数が出るのでは！と危惧されます。

★26年4月から実施なので、4月生まれの人には来年の3月には新判定を受けることになります。日頃の支援の頻度も問われることになるので、作業所やホームの職員が支援の実態を、説明しなければならぬ状況が多くあると思います。

新法では、「医学モデル」から「社会モデル」への障害概念を転換すると謳っていますが、区分が残り、サービスが点数によって決まる仕組みそのものが、「社会モデル」に転化できない要因にならないければよいと危惧します。

また、「介護保険との統合を前提としない新法を検討する」ということがどうやら怪しくなってきたようです。すべてコンピュータ処理し、全国統一の規格化される仕組みは、介護保険と同じ方向を向いているような気がします。

夏は祭りでしょう

7月27日（土曜日）納涼祭
祭りを盛り上げる!!



仲間の十八番

きよしのズンドコ節は祭りの

始まりの景気付にもってこい

中野島の音楽祭は年々盛大になってきました。下布田小学校の先生たちの軽音楽演奏やちびっこからお姉さん、お兄さんたちの今風のダンスやら、舞台が商店街のあちこちにあり、町が賑やかです。毎年祭り実行委員から声をかけていただき、祭りの定番となりました。

7月21日（日曜日）

稗原農園・山がっこ&流しソーメン大会を開催しました！

「山がっこ」とは…

震災後から青山商店さんのある宮城県石巻市北上町十三浜への支援を一緒にさせていただいている NPO 法人水守の郷・七ヶ宿の海藤節夫さんが環境啓発活動の一環として実践している自然体験学習会です！

この度、稗原農園オーナーの岸井さんの

全面的なバックアップにより、

海藤節夫と仲間たち（通称・海ちゃん一座）

による、はぐるまの仲間たちと稗原のチビッ

子たちの為の「山がっこ」が開催されました！



そうめんを食べる器も自分たちで竹を加工して作りました！



まずは、近隣の水沢の森から竹を伐採して農園までの運搬です！

お待ちかねの流しソーメン大会です！稗原農園では、採れたて野菜と青山商店さんのわかめも食べ放題の豪華版です！

食後のお楽しみは、竹で作るバームクーヘン
その名もバンブークーヘンです！



そして：「山がっこ」の最後は

海藤さんが仲間たちと子供たちの輝く未来を想うやさしいやさしい歌で締めくくってくれました。



仲間たちも大好きな海藤さんの歌声は、十三浜チャリティライブで堪能できますので、是非ライブの方へお越しください

稗原に農園を開設してから3か月：
現在でもバタバタと慌ただしい日々が続いておりますが、はぐるまの仲間たちはこんなに素敵になんかに支えられて新しい地域での充実した暮らしを満喫しています。



ご参加をいただきました皆さま
ご来場ありがとうございました！

岸井さんと海ちゃん一座のおかげで、また一つ稗原の子供たち・近隣住民との絆が生まれるように感じています。

5年後10年後には、はぐるまのイベントが地域に愛される恒例行事となるよう、稗原自治会子供会など地域の皆さんと「楽しく」活動を続けていきたいと思えます。

尚、当日の参加費とご協力をいただいた

カンパ金 合計59,600円は、8月11日の「十三浜音楽祭」で慰霊（震災でお亡くなりになった方々の為の慰霊）のために打ち上げられる花火の支援金として全額寄付をさせていただきました。ご参加・ご協力をいただきました皆様、ありがとうございました。

【サラブレットの馬糞が仲間入りしました】
多摩川清掃を一緒にしている方のご紹介によりこの夏から明治大学馬術部のサラブレット？の馬糞を提供していただけることになりました。



立派な堆肥場も完成です

まずは、この馬糞堆肥で美味しいニンジン作りにチャレンジをして、全国大会で活躍中のお馬さんたちにお礼をしたいと思います。